



ワンダと巨像

大地の咆哮

オリジナル サウンドトラック


ワンダの巨像

大地の咆哮

オリジナル サウンドトラック

- 01 プロローグ～古えの地へ～
- 02 禁断の術
- 03 掟
- 04 黒い血
- 05 蘇生
- 06 巨像の気配
- 07 異形の者達～巨像との戦い～
- 08 開かれる道～巨像との戦い～
- 09 戦いの終り
- 10 偶像崩壊
- 11 緑の丘陵
- 12 荒ぶる邂逅～巨像との戦い～
- 13 甦る力～巨像との戦い～
- 14 湖畔
- 15 静寂～巨像との戦い～
- 16 力への畏怖～巨像との戦い～
- 17 ワンダの死
- 18 最果ての地
- 19 忍び寄る影～巨像との戦い～
- 20 背後からの使者～巨像との戦い～
- 21 反撃～巨像との戦い～
- 22 鳥葬
- 23 閉ざされた都市



- 
- 24 放たれた番人～巨像との戦い～
25 絶望との別れ～巨像との戦い～
26 祈り
27 駿馬
28 廃虚の門番～巨像との戦い～
29 聖域
30 儀式の終焉～巨像との戦い～
31 追っ手
32 復活の予兆
33 エピローグ～残されし者たち～
34 希望
35 陽のあたる大地
〈BONUS TRACK〉 Not Used for Game
36 記憶
37 荒野
38 大地の声
39 湿原
40 怒り
41 最後の戦い
42 最果ての地 (Reprise)

音楽:大谷 幸



当初、「男ゲー（仮）」と「女ゲー（仮）」という2つのゲーム企画を構想していました。「男ゲー（仮）」とは名前のとおり、男性ユーザーを想定したゲーム企画、「女ゲー（仮）」も名前のとおり、女性ユーザーを想定したゲーム企画。これはどちらかの性別の人しか楽しめないという意味ではなく、その企画がゲームとして完成し、商品となった時にどちらの性別の人の楽しんでる姿が想像しやすいかで付けた仮タイトルでした。

全く違ったテイストを持つ両企画でしたが、最終的に「男ゲー（仮）」の本制作がスタートしました。のちに「男ゲー（仮）」が「プロジェクトNICO（仮）」となり、最終的には「ワンダと巨像」という正式タイトルとなりました。

そういうことから「ワンダと巨像」のBGMは男性的で、厚みのある勇壮的な曲が必要であると考えていました。

なおかつ蘇生術を扱った設定から単に勇壮だけでなくその中にある悲壮感や歴史感が含まれており、巨像という巨大な生物が登場するためその存在に見合うだけの雄大で威厳のある楽曲が必要でもありました。

つまり、その幅広い範囲に応じた楽曲を生み出すことができる作曲家の方が必要で、そういう作曲家さんを探している中で大谷幸さんに出会いました。

もちろん大谷さんはトラッドな曲からニューミュージック、はたまたフルオーケストラの映画音楽まで幅広く作曲やプロデュースをされ、民族楽器への造詣も深い、と大谷さん以外にはいないと思いましたが、最初のきっかけは…

好きな漫画であり、前作「ICO」のイメージにも近い、萩尾望都さんの「トーマの心臓」、

「トーマの心臓」を原作とした映画「1999年の夏休み」、

「1999年の夏休み」を監督された金子修介さん、

金子修介さんの映画「ガメラ」、
「ガメラ」の音楽をやられてる大谷幸さん。

遠い繋がりなのですが僕の中では1本筋が通ったように感じました。

大谷さんにはゲーム仕様に合わせたBGM制御のために何度も無理な作曲のお願いをしたのにも関わらず快く引き受けてくださってありがたく思います。

また長い制作期間ということもありまた大谷さんをはじめ、SCEJサウンド課の北原くん、他サウンドスタッフのみなさんには多大な苦勞をおかけしたと思います。

「ワンダと巨像サウンドトラック」のリリースを嬉しく思う「ワンダと巨像」のマスターアップ前夜の上田でした。

「ワンダと巨像」ディレクター/ゲームデザイン 上田文人

「ワンダと巨像」サウンド・トラックに寄せて

スタート時点でのプロジェクト名「NICO」つまり「ワンダと巨像」の制作に関わってから、いったいどの位の時が過ぎたのだろう。

その間、僕は自分のソロ・アルバムを作り、数本の映画や、アニメのサウンド・トラックを作った。ライブツアーにも、3度程、日本中を回ったと思う。そしてこの夏(2005)には、また別の作品をプロデュースし、レコーディング中だ。

何が言いたいのかというと、それだけの時間とエネルギーが、この作品の完成のために、そのスタッフたちによって注ぎ込まれていたということだ。スタッフのひとり、子供が生まれ、その子の名前を「NICO」にした!

このサウンド・トラックでは、スタッフの熱意と僕の作曲という行為を通して、素敵な曲たちが生まれた。

神の世界に触れようとも、愛する人を救いたいという意志・心・決意を持って行動する禁断の物語は、僕に素晴らしいインスピレーションをくれた。

オープニングからエンディングまで、まるで映画を観るように一本の精神が買われている。

歌われている歌詩は、ディレクターによって書かれた「NICO語」であり、深い意味を持っている。

信じた道を歩き続けること。どんな障害に遭遇しようとも唯ひたすらに歩き続けること。希望の光は、その先に見えてくる。否、例え見えてなかったとしても、そういう生き方が美しいと思う。

この作品に関わった全ての人に感謝したい.....もちろん神様にも。

大谷 幸



大谷 幸プロフィール

作曲/編曲/ピアノ/プロデュース

モダンダンスの両親の元に生まれ、音楽と舞踊の中で育つ。

日本大学芸術学部作曲コースにて、クラシックと現代音楽を学び、An School of MusicでJazzを学ぶ。

その後Party、ダンガン・ブラザーズ・バンドなどのバンド活動を開始。その後、サザン・オールスターズ、森田バンド、松田聖子らのコンサート・サポート及びレコーディング・アレンジなどを手掛ける。

ピアノ・ソロ・コンサートを行ったり、海外でのコンサートに出演したりなど、演奏活動を続けるうちに映画音楽に夢中になり、作曲家・プロデューサーとして独立。

「ガメラシリーズ」(平成版全作品)「ゴジラ・モスラ・キングギドラ」【化粧師】「精霊流し」【ガンダムW】「DC魂連環」など様々なサウンド・トラックを担当し、多くの音楽ファンはもちろん、映画ファン・アニメファンに愛される存在となる。映画音楽とオーケストラ、ピアノをこよなく愛するが、クラシックに留まらず、現代音楽、ジャズやロック、テクノ、ヒップホップまで得意分野は幅広い。

ピアニストとして、トリウムズ・カム・トゥルーのコンサート・サポートも手掛ける。



The background of the entire page is a large, green, textured creature, possibly a giant ape or a similar beast. On its head, there is a map of a region with several glowing yellow points. A rider in a white and black outfit is riding on its back. The creature's body is covered in a rough, scale-like texture.

**Development Staff of
“WANDER AND THE COLOSSUS”**

Line Producer / Project Manager: Kenji Kaido (SCEJ)
Game Design / Director: Fumito Ueda (SCEJ)
Planning & Sound Setting: Makoto Yamaguchi (SCEJ)
Sound Manager: Shinpei Yamaguchi (SCEJ)
Sound Design: Keiichi Kitahara (SCEJ)

Music Staff

Composed and Arranged by Kow Otani
Recorded and Mixed by Toshiyuki Yoshida (IMAGINE)
Recorded at Victor Studio
Mixed at Appo Sound Project
Music Supervisor: Tomonobu Kikuchi (Blue One Music Inc.)
Recording Producer: Yuji Saito (IMAGINE)
Recording Director: Masaru (IMAGINE)
Musician Coordinator: Toshiaki Ota

Soundtrack Staff

Product Coordinator: Tatsuro Nakamura (SCEJ)
Mastering Engineer: Koji Suzuki (SMC)
Mastering at Sony Music Nogizaka Studio
Art Director & Design: Yoshinobu Yamaguchi (works D)
Visual Coordinator: Shigeru Sasaka (KING RECORDS)
Promoters: Yukiko Kougo (KING RECORDS)
Hiromu Hirano (KING RECORDS)

Special Thanks to

IMAGINE / TOHOKUSHINSHA FILM CORPORATION /
Blue One Music Inc. / Tomikazu Kinta (SCEJ) /
Yasuhide Kobayashi (SCEJ) / Takahiko Sakurai (SCEJ) /
Atsuyuki Sakimae (SCEJ)

Directed by Shigenori Iwase (KING RECORDS)

Musicians

Piano / Irish Bouzouki / Synthesizer programming: Kow Otani

Percussion: Midori Takada
Tomoko Kusakari

Trumpet: Masao Terashima
Tatsuya Shimogami

Trombone: Osamu Matsumoto
Junko Yamashiro
Makio Okawa

Hörn: Otohiko Fujita Group

Flute: Takashi Asahi
Nami Kaneko

Clarinet: Tadashi Hoshino

Oboe: Masakazu Ishibashi

Fagotto: Jousuke Ohata

Chorus: Gey's AX

Strings: Masatsugu Shinozaki Group

取り扱い上のご注意 ●ディスクは両面共、指紋、汚れ、キズ等を付けないように取り扱って下さい。 ●ディスクが汚れたときは、メガネ拭きのような柔らかい布で内周から外周に向かって放射状に軽くふき取って下さい。 レコーダ用クリーナーや溶剤等は使用しないで下さい。 ●ディスクは両面共、貼紙、ボールペン、油性ペン等で文字や絵を書き、入り、シール等を貼付しないで下さい。 ●のび縮れや変形、又は接着剤等で補修したディスクは、危険ですから絶対に使用しないで下さい。 保管上のご注意 ●直射日光の当たる場所や、高温・多湿の場所には保管しないで下さい。 ●ディスクは使用後、元のケースに入れて保管して下さい。 ●ディスクケースの上に重いものを置いたり、落としたりすると、ケースが破損し、ケガをすることがあります。



KICA 1379

King Record Co., Ltd. 1-2-3 Otowa Bunkyo-ku Tokyo 112-0013 Japan. <http://www.kingrecords.co.jp>

ワンダと巨像 is a registered trademark of Sony Computer Entertainment Inc.

©&©2005 Sony Computer Entertainment Inc.